

武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2025.4.13 No.28



第 19 回研究大会が 3 月 8 日（土）に開催されました

木田会長の挨拶に続いて、庄井良信さん（日本臨床教育学会会長）から「臨床教育学とフィンランドの教育事情—国際共同研究のこれまでとこれから—」と題する講演をして頂きました。武庫川臨床教育学会の源流にも触れながら、ナラティブラーニングの意義、フィンランドの教育改革の現状、近年訪問されたフィンランドの実情など、詳細に報告して頂きました。ヴィゴツキーやハッカライネンの理論、ロシア・ウクライナ情勢にも言及され、あっという間に 90 分が過ぎました。参加者からは「授業を受けたいと思う内容でした」「研究的な刺激となりました」などの感想がありました。

総会は北川会員が議長をされ、原案通り承認されました。その後の自由研究発表では 3 分科会にわかれ、7 本の発表のそれぞれで活発な討議が行われました。発表者と題目は下記の通りです。

1. 長谷 範子さん（名古屋女子大学）
「生活者」としての子どもに臨む保育者のあり様についての一考察
2. 二羽礼さん（東大阪大学）
「子どもの最善の利益」から考える保育者の本質と価値
3. 加藤恵美子さん（桃山学院教育大学）
教員志望学生の琴線に触れる思春期児童・生徒の詩的表象—大学課程における詩の創作の現場から—
4. 吉益敏文さん（豊岡短期大学）
初任者研修のケアのありかたについて—新任教師からの聞き取りから—

武庫川臨床教育学会
<http://mukogawarinkyo.com/>

〒663-8558
兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学教育研究所内

電話番号: 075-922-7749（吉益自宅）
メール: mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

5. 田崎由子さん（大阪綴方の会）実践報告
教員志望の学生と子どもの作文を読み合う
6. 北川健次さん（相愛大学）
大学生の綴方を読みあう
7. 上田孝俊さん（武庫川臨床教育学会前会長）
教育実践模索の土台としての「地域」

自由研究発表の後、シンポジウム「私と臨床教育学」が開催され渡邊理事の進行のもと、長谷範子さん、田邊実香さん、田中佑弥さんの3人から問題提起され、会場の参加者でグループ討議をして深めました。「前回同様、参加者全員にご発言いただく場を持つことができたことは良かったと思います」などの感想がありました。

最後に、中村副会長から来年の20回大会についてふれられ閉会しました。31名（オンライン2名）の参加でした。懇親会は14人の参加でした。感想などの詳細は、次回のニュースレター29号で紹介します。

第20大会を会員の過半数が参加する大会に

2025年度の活動方針では、次の4点を具体化しました。小さな学習会をさらに継続的に開催します。加藤会員にお願いした桃山学院教育大学へのフィールドワークは今年実現させます。小西会員にお願いして、大阪常照園の視察を考えています。学習会は2つの研究会を計画しています。5月10日には、石本日子和子会員から「能登地震被災地に訪問して」の報告をしていただきます。小保方会員に福祉教育実践の報告をお願いしています。日程は検討中です。オンライン開催ですので、どなたでも参加できます。皆さんの参加をお待ちしています。小さな研究会の参加を広げることも考えています。会員みなさんの20回大会についての要望・意見などを事務局まで是非お寄せください。

ニュースレターは、郵便料金の改定などの理由により、郵送からメール発送に切り替えています。引き続き、事務局にご連絡をよろしくお願いいたします。

理事会・事務局としては、年1回の大会開催（3月開催予定）、年1回の学会誌『臨床教育学論集』の発行、毎月の定例理事会・事務局会議の開催、小さな学習会の継続開催、会員の交流・連絡を促進するニュースレターを年4回以上発行することを引き続き発展させます。次回大会は、第20回研究大会などを通して、武庫川女子大学の学内学会という原点を大事にしながら、可能な活動、元気で楽しい学会活動を展開すること、過半数の会員参加を目指すことや、会員の皆さんの知恵や意見を集約しながら節目の大会として成功させたいと思っています。

小さな学習会の予定 ※参加申し込みは事務局まで→ mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

1. 5/10(土曜日) 午後2時～4時 報告：石本日子和子 会員（兵庫） オンライン

「能登地震の調査 震災体験の継承を編みながら考えたこと」

※能登の現地にいかれ調査聞き取りをされたことを報告していただきます。

※参加希望の方は事務局まで4/30までにご連絡ください。URL送付します。

2. 桃山学院教育大学の視察 案内：加藤 恵美子 会員

7月～9月ごろで日程調整中、次回ニュースレターでお知らせします。

3. 社会福祉法人大阪西本願寺 常照園への視察 案内：小西 健太 会員

日程については小西会員と検討中、次回ニュースレターでお知らせします。

4. 福祉実践の報告 報告：小保方 敬子 会員

日程については小保方会員と検討中、次回ニュースレターでお知らせします。

新しい編集委員長・編集委員

『臨床教育学論集』16号が発行されました。木田編集長が会長になられたため、次回の17号の編集から、田崎由子さんが新しく編集長になられ、編集委員会が始動します。編集委員に荒木実代会員が加わってくださいました。ご苦労様です。どうぞよろしくお願いいたします

【重要】ニュースレターの郵送からメール発送への変更のお願い

郵便料金が改定されたため、郵送でのニュースレターに伴う費用が大きくなっております。ご迷惑をおかけしますが、可能な限り、メールでの発送に切り替えたいと思っております。

メール発送でよい方も、郵送を希望される方も、いずれの場合も、その旨を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします（この機会にメールアドレスの情報も最新にしたいと思っております）。現在40名の方がメール発送を登録されています。事務局メールアドレス → mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

新会員の紹介

佐藤年明さん（三重大学名誉教授）

大会で新しく会員になっていただきました。ここ数年オンラインで大会に参加されていました。今回は、会場に足を運んでくださり、入会していただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

会員の書籍紹介



田中 佑弥 『学校に行かない子どもの社会史－不登校とフリースクールの源流』

慶応義塾大学出版会 3,960円（税込）

「学校に行かない子ども」という問題は、どのように生まれたのか。そして学校にいかないことを文科省が「誰にも起こりうるもの」であることを認識する過程はどのようなものであったのか。多様な人々の「声」から再構成する。武庫川での博士論文を軸に展開されています。シンポジウムでも紹介されていました。



吉益 敏文 『SOSを出しつづけて－私の体験的教師論－』

清風堂書店 1,650円（税込）

僕は教師に向いていないのでは？という問いをもちつづけた教育論・教師論。教育とは対人援助職（教師）とは何かを問う書。臨床教育学論集の研究ノートや図書紹介などが収録されています。



※ 次回は、安井勝著『明日の道德教育』、福井雅英著『質の高い教師とは』（仮題）を紹介予定です。

シリーズ：私と臨床教育学②④

臨床教育学は福祉教育実践の拠りどころ

小保方 敬子（日本メディカル福祉専門学校）

臨床教育学との出会いは今から約 20 年前にさかのぼる。当時、学校現場における子どもの権利に関心があり、社会的課題としての不登校やいじめなどの事象について、子どもの最善の利益を考慮した支援を考えることに関心があった。

武庫川女子大学院臨床教育学研究科（修士課程）在籍により、教育・福祉・心理の各専門的な知識を各先生方からご教授頂き、多岐にわたる視点やアプローチ、複合的な関わりについて学ぶ機会を得た。特に、福祉学を基盤としたアプローチをもとに、心理学との共通点や相違点、教育学の視点から事象を捉えることの難しさを感じていたことを思い出す。又、少年院や精神科病院などに出向き、福祉と他領域には密接な関わりがあることを理解した。

さて、臨床の場をもたない私が倉石先生からご教授頂いたことの 1 つに「現場を見つけ、当事者に向き合うこと」、「現場で起きていることへの支援を考えていくこと」がある。本人だけではなく、本人を取り巻く環境なども理解し、支援のあり方を考える為、児童をもつ保護者へのインタビューから当事者理解に奮闘したものである。分析や支援内容を構築することなどは課題として残ったが、学童期の子どもを育てている保護者から「その時にしか聴くことが出来ない、ありのままの声」を聴くことが出来たことは唯一無二の経験となった。

院修了後から専門学校にて教員として勤務を継続している。保育士や社会福祉士などの資格取得を目指す学生を主体とし、「何を伝えられるか」を意識し、日々課題を持ちながら、仕事に向き合っている。

対人援助職養成には現場実習が必須であり、学生は子ども理解をはじめ、施設や職員理解、さらに自己覚知などを行う中で新たな課題を発見する。事前から事後に至るまで一貫した指導を行う中で、学生を理解しながら、養成カリキュラムや実習施設の受入方針との調整を行うことは、教育現場におけるソーシャルワーク実践とも言えるだろう。

時に、適職性に悩む学生に対して、「必要とされている場所があるなら、挑戦すること」、「自分がやりたいことであれば、初心を忘れず自分のペースで日々行っていくこと」を伝えている。

日々、学生や保護者などを理解し、成長に寄り添うことから、これからも前に進んでいきたいと思う。日々の出来事は臨床であり、支援方法に正解はない。ともに考え、根拠をもち、関わるのが大切だと思う。

※ 今回は、早川りかさんです。

編集後記

▲第 19 回大会が終了しました。お忙しい中、約 30 人の参加（懇親会 14 人）で充実したひとときでした。準備も含めて、司会、議長、レポーター、シンポジストの方々ありがとうございました。感想などの詳細は次号に紹介します。▲第 20 回大会は節目の大会となるため、会員の過半数の参加が可能な大会にしようと理事・事務局で考えています。どのような大会にすればよいか、みなさまの積極的な意見をお聞かせください。▲寒い冬からようやく春のきざしがみえてきました。また、小さな研究会でお会いすることを楽しみにしています。〈文責：吉益〉

